2019 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「実践ケア賞」

若年性認知症の人と家族と地域の支え合いの会「希望の灯り」
【設立年月日】2012 年 10 月 20 日

【授賞理由】
　推進する地域での支え合い活動は認知症のある人とその家族そして地域住民の全員が認知症の当事者であることを自覚させ誰もが認知症を自分自身の問題として捉える意識をもたせる非常に意義のある試みであるといえる.

【団体概要】
　この会の大きな特徴は，認知症とともに生きる本人や家族が集まり結成した会ではなく，地域の方々やその地域の専門職らがその必要を強く思い作られたものであることです．会の会員は現在 44 人．認知症とともに生きる本人・家族は 16 名，その他の会員には地域の方々，自治会長，民生委員長，校区福祉委員長，社会福祉や介護に関する専門職などです.
　地域の方々といろんな活動を一緒に楽しく行っています．地域と関わることが認知症とともに生きる本人や家族，参加している住民との距離を縮めています.

【事業活動】
・野菜つくり活動
・まちかどライブラリー活動
・ピアサポートステーション　より愛どころ　活動
・講演活動
・啓発・交流会・余暇活動

【活動目的】
・若年性認知症の本人や家族が住み慣れた地域で，人々の温かいまなざしと支援の中で暮らし続けること
・若年性認知症の理解を広める啓発活動や地域との交流を深めること
・本人，家族の居場所の構築と社会貢献の機械や就労の機会を作り出していくこと

【活動内容等】
　認知症とともに生きる本人のやりたいこと地域の方々とメンバーで実現していくことを基礎にしています．認知症になっても自分のやりたいことにチャレンジできることをみなさんに知らせていきたい．当たり前に人として認められ，みんなが当たり前にしていることを実行できるようにすること．そして，安心して地域の方々と一緒に暮らすことを目指しています．6 年

の月日の積み重ねで，認知症の〇〇さんから〇〇さんと呼ばれることが多くなっています．関わりを多く持つことが，誤解や偏見を取り除く近道であることを証明できたように思います．これからもこの活動を続けていくことが誰にでもやさしいまちづくりにつながっていくと思います．また，その意識も地域の方々に浸透してきています．

今後は，40 代，50 代の当事者の家族を対象にした支え合いの機会を作ります．SNS を使って，全国の方々とつながり，それぞれの顔を見ながら支える活動を展開していきます．